



やはり全国学力テストは 中止しかない！

さる8月29日、文科省は、全国学力テストの結果を公表しました。昨年は、「4月前後になると、例えば、調査実施前に授業時間を使って集中的に過去の問題を練習させ、本来実施すべき学習が十分に実施できない」(平成28年4月28日、文科省通知)といった競争の激化が進んでいることを文科省が認めました。

都道府県の結果公表だけでもこのような深刻な事態に陥っているにもかかわらず、今年度からは政令指定都市の結果まで公表されるようになりましす。

全国学力テストの問題点をみなさんと考えてみたいと思います。

1問にも 満たない差

今年度の結果から、文科省は、「地域規模等(大都市、中核市、その他の市、町村、へき地)による大きな差は見られない。」「ほとんどの都道府県・指定都市が平均正答率の±5%の範囲内にあり、大きな差は見られない。」と分析しています。

小学校国語の場合、平均正答率5%を平均正答数に直すと、0.5問から0.75問程度となります。

つまり、1問に満たない差なのです。わずかな差にすぎないのであれば、悉皆ではなく、抽出調査で十分把握できるのではないのでしょうか。

また、全国学力テストは「学力の特定の

一部分(実施要領)を把握するための調査だとされています。しかし、一部分にせよ、本当に学力を把握する調査問題となっているのでしょうか。今年度の小学校国語の問題内容から考えてみたいと思います。

「知識・理解」が 把握できる？

国語Aは、15問で、そのうちの6問は漢字です。少ない問題数であるにもかかわらず、漢字の割合が高くなっています。

残りの9問は、問題文を読んで解答する問題です。その中には、「話す・聞く能力」や「書く能力」を把握するための問題も含まれていますが、そういった能力を把握する問題になっているか疑問に感じます。(裏面、国語A2番「手紙を書く」参照)

また、この9問の解答形式は、すべて選択式となっています。選択式では、どれかに○をつけておきさえすれば、まぐれで「正答」となることがあります。結果を見ただけでは、正しく理解しての正答なのか、理解できなかったのにまぐれで「正答」となったのか見分けがつきません。

「漢字」6問と、「読み取り」で判断する選択式9問の計15問。これで5年生までに学習した国語の「知識・技能」の学力を把握すること自体に問題があると考えられます。

「活用力」が 把握できる？

国語Bでは、9問中5問が選択式です。難しい問題であればあるほど、選択式でまぐれで「正答」となる確率は高くなります。B問題を選択式で解答させるのは、正確な学力把握とは言えないでしょう。

残り4問は、記述式となっていますが、いくつかの条件に合わせて書く問題になっています。解答の内容が合っているにもかかわらず、条件のどれか1つに外れるだけで、誤答とされます。

たとえば、字数制限では、内容が正しくても、字数が1字でも多かったり少なかったりするだけで、誤答とされてしまいます。条件をつけた記述式では、同じ誤答でも、『理解できていない』誤答なのか、『理解できていても解答の仕方が条件に合わない』誤答なのか判断することができません。

また、配点の不公平さもあります。選択式で、まぐれで「正答」とされた場合も、条件付きの記述式の問題で正答とされた場合も、同じ配点(1点)となります。選択式でまぐれで当たった場合も、「活用力」と評価されるのです。

それゆえ、国語B問題で「活用力」を把握すること自体に問題があると考えられます。

なぜ広がる 事前対策

以上のように、全国学力テストで、学力の一部にせよ「学力を把握する」というのは大きな問題があると考えられます。

同時に、その結果である平均正答率・平均正答数は「学力を正確に表す数値」とは言い難いでしょう。それにもかかわらず、いったん結果が公表されると、「正答率」という数値「がひとりの歩きし始めます」。

実際に、「順位＝学力」と思いこまされ、順位を気にする知事が、「上位10位以内に入れ」「全国平均に追いつけ」と、教育委員会を通じて各学校に圧力をかけるという実態も見られます。自治体独自の学力テストを行ったり、市町村別・学校別の成績を公表したりして、点数引き上げ競争をさせるのです。その結果、学校では、大量の宿題を出したり、過去問題や練習問題を繰り返し行ったりして、全国学力テストの点数を上げることに力を注ぎ、子どもや保護者を苦しめるという事態が生じています。

義務教育の役割は、すべての子どもに確かな学力を身につけさせることです。それが、全国学力テストで、テストの点数アップの教育へと変質させられ、学びの中身がゆがめられてしまうのです。

子どももの心を傷つける

全国学力テストだけでなく、都道府県などの自治体独自でも学力テストが行われるところがあり、学校別の結果が公表されるなどで競わされています。

ある県の小学校では、クラス別の成績までもが公表されていて、成績向上を競わされているそうです。

その小学校のあるクラスで、成績の振るわない子が、「自分がテストを受けることで、クラスの成績を悪くする…」と考え、学力テストの前日、みんなの前で「明日、学校を休みます。」と発言したそうです。それだけでも心を痛める出来事なのですが、その発言に対して、クラスのみんなが拍手をしたということです。

競争に追い立てることで、子どももの心のみならず、子どもどうしの信頼関係も傷つけるという深刻な事態となっているのです。

点数による競争主義を引き起こす大きな要因となっている「全国学力テスト」は、やはり中止すべきです。

これで「書く能力」が把握できる？

～小学校国語A 2番 「お礼の手紙を書く」(設問一)より～

設問一は、「お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか」という問題で、問題の趣旨は「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる」です。

しかし、以下の実際の問題を見てみると、「書く能力」を把握する問題というより、「読み取る能力」を把握する問題という印象を強く感じます。

2

松本さんは、昔の人々のくらしに興味をもち、学校の近くにある歴史資料館へ行きました。その後、お世話になった資料館の山村さんに、お礼の手紙を書いています。次の【山村さんへの手紙】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【山村さんへの手紙】

緑が美しい季節となりました。先日はおいそがしいところ、歴史資料館を案内していただき、ありがとうございました。実際に資料館を見学することで、昔の人々のくらしについて考えることができました。

特に心に残っているのは、「昔のくらし体験コーナー」です。せんたく板を使ってあらうと、せんたく機だけでは落ちないようなよごれがきれいに落ちたのでびっくりしました。また、よごれを落とすには時間がかかり、うでがいたくなることを実感しました。今は自動でせんたくができて、その間に他の仕事をすることもできます。でも、昔はせんたく板を使い、長い時間をかけてせんたくをしていたことが、今回の見学を通して分かりました。

昔のくらしのよいところや大変なところを知ることができ、もっと調べてみたくなりました。これから、いろいろなことをわたしたちに教えてください。

ウ

ア

イ

一 松本さんは、【山村さんへの手紙】の でどのようなことを書いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 見学をして興味をもったことについて、本で調べたことを書いている。

2 今と昔の生活のちがいについて、体験して気づいたことを書いている。

3 山村さんの話の中で、一番心に残ったことを書いている。

4 見学をして新たに疑問に思ったことを書いている。

※正解は、【2】です。

一見、【3】の「心に残ったこと」の文言に引っかかってしまいやすく、きちんと「読み取る」力が求められる問題です。